



EMBASSY OF THE REPUBLIC OF THE UNION OF MYANMAR, TOKYO



NEWSLETTER VOLUME NO. 1

DATED: 1st Feb. 2024

No.	表 題
1.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 タイ王国陸軍統合作戦部長率いる代表团と面会
2.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官独立 76 周年記念の名誉勲章授与式に出席
3.	国軍殊勲名誉勲章の授与式に国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席
4.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官中国の Sun Weidong 外務副大臣と面会
5.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 政党登録承認済の各政党の担当者と面会
6.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 ASEAN 議長のミャンマー担当特使と会談
7.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 タイ王国の General Songwit Noonpackdee 国軍司令官とビデオシステムにて会談
8.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 タイ王国の陸軍参謀長室諮問委員会委員長率いる代表团と面会
9.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に 駐ミャンマー ブラジル大使が信任状を提出
10.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に 駐ミャンマー エジプト・アラブ共和国大使が信任状を提出

11. 経済特区改善のための関係管理委員会の取り組みと現在の3つの経済特区の中のティラワ経済特区の順調な進行状況
12. 国家統治評議会委員兼内務大臣ヤーピエイ中将率いる代表団 中華人民共和国国務院議員 Mr. Wang Xiaohong 公安大臣率いる代表団とオンライン会談
13. 副首相兼外務大臣 ASEAN 議長特別代表と面会
14. ウガンダ、カンパラ市に開催された非同盟諸国外相会議にタン・スエ副首相兼外務大臣出席
15. ウガンダ、カンパラ市にて開催の非同盟諸国首脳会議中にタン・スエ副首相兼外務大臣が Mr. Soltan bin Saad Al-Muraikhi カタール国外務大臣と会談
16. ウガンダのカンパラ市で開催された第19回非同盟諸国首脳会議に タン・スエ副首相兼外務大臣が出席
17. ウガンダのカンパラ市で開催された第19回非同盟諸国首脳会議の開催期間中にタン・スエ副首相兼外務大臣がアラブ首長国連邦の代表団の Minister of State Mr. Khalifa Shaheen Almarar 代表、バングラデシュの Dr. Hasan Mahmud, MP、ウガンダの Minister of State Hon. John Mulimba と会談
18. 副首相兼外務大臣 駐ミャンマー中華人民共和国大使との面会
19. ウー・ルイン・ウー副外務大臣 中華人民共和国 Mr. Sun Weidong 副大臣
ミャンマー・中国の二国間の会談
20. ウー・ルイン・ウー副大臣 駐ミャンマーインド大使との面会
21. 副外務大臣 駐ミャンマーブラジル共和国大使と面会
22. 副外務大臣 駐ミャンマーエジプト・アラブ共和国の大使との面会
23. ウー・ルイン・ウー副外務大臣 Mr. Marcoluigi Corsi 国連常駐調整官兼人道調整官と面会
24. ASEAN 議長国のミャンマー担当特使である H.E. Mr. Alounkeo Kittikhoun 率いる代表団が NCA（全土停戦合意文書）に署名済みの民族武装勢力7グループと面会
25. 駐日ミャンマー大使館にてミャンマー・日本ビジネスフォーラムを開催

26. 日本の地震で被災された方々のために、駐日ミャンマー大使より七尾市長を訪問し義援金を贈呈
27. ソー・ハン駐日ミャンマー大使 地震の被害を受けた日本の石川県在住のミャンマーの人々を訪問・激励し、飲料水や食糧、医薬品を寄付
28. ミャンマー連邦共和国国家統治評議会が服役中の受刑者に恩赦を実施
29. ミャンマーとインド間で「迅速に利益をもたらすプロジェクト実施の覚書」に調印
30. 2023年12月の第3週までにミャンマーから 輸出額 US ドル2億6600万以上を達成
31. 2023年12月第四週目にミャンマーから2億7,800万米ドル相当の輸出品を発送
32. 2023年4月から11月までの8カ月間に水産物29万トン以上を輸出し US ドル4億4800万を獲得
33. 2023年4月から11月までの8か月間で、天然ガス輸出から20億米ドル以上獲得
34. 2023年4月から12月までの9カ月間に110万トンのいろいろな豆 輸出で9億7,800万米ドルを獲得した
35. 2023年4月から12月までの9か月間で、ゴムの輸出は1億4,400万米ドル以上を獲得
36. 2023-2024 会計年度の前期9か月間の対外貿易量 220億ドル超
37. ミャンマーから3,000トン以上の蜂蜜を輸出
38. 2023~2024 会計年度の最初の9か月で、中国とミャンマーの貿易は過去最高に達した

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官
タイ王国陸軍統合作戦部長率いる代表团と面会

国家統治評議会議長ミン・アウン・フライン国軍総司令官は、タイ王国陸軍の統合作戦部長ジャカポン・ジャンペンペ（Jakkapong Janpengpe）中将率いる代表团と 2023 年 12 月 27 日の午前、ネピドーのバインナウンイエーター来賓館で面会しました。

会談では、両国と両軍の間の既存の友好と協力を強化する状況や、両国間の国境貿易を安全かつ円滑にするため、両国間の政治や国軍間の安全保障の協力について友好的に意見を交換しました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官
独立 76 周年記念の名誉勲章授与式に出席

独立 76 周年記念の名誉勲章授与式が国家統治評議会の式典会場にて 2024 年 1 月 4 日午前で開催され、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席しスピーチを述べ、名誉勲章を授与しました。

まず初めに、国家統治評議会議長兼首相が「国の独立と主権の安定は一瞬にして失われる可能性があるが、独立を獲得するためには長きに渡り努力する必要があること、国家のリーダー アウン・サン将軍のリーダーシップの下、連邦内に生じたすべての国民の調和のある粘り強さ、尽力、あふれる勇気によって、団結し努力をした結果、1948 年 1 月 4 日に独立国の一員として、世界の真ん中に堂々と再び立つことができたこと、したがって今日は我が国にとって非常に特別な 76 年目の独立記念日であること、国の構築活動の実施において、国家統治評議会、連邦政府など国の主軸において責務ある者らと共に、あらゆる分野の人々もそれぞれ手を取り合って努力しているところであること、我が国の 76 年目の大事な特別な日において、国のために顕著な功績をあげた人々を讃えるために今日の式典が行われていること、平和で近代的に発展した国家の構築のために卓越した功績を残した人々や、私たちの 3 つの責務を守るために命を懸けて取り組んだ人々、国家の経済、社会、国民に関する管理の分野において積極的に従事した人々、民間分野および軍事分野で国のために尽力した人々、国と民族のために科学、地理やその他の学問分野で世界水準の創造を成し遂げた人々、文学と芸術の分野で際立って優れた人々に、本日の非常に特別な 76 年目の独立記念日の式典において名誉勲章を授与する」と述べました。

この式典で、タイエシートゥー勲章 9 名、シートゥー勲章 5 名、トゥーラ勲章 6 名、ティーリパンチャー勲章 42 名、ワナチャーティン勲章 83 名、アリンガーチャーソワ勲章 4 名、テイパンチャーソワ勲章 4 名の合計 153 名に名誉勲章が授与されました。



国軍殊勲名誉勲章の授与式に国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席

国軍殊勲名誉勲章の授与式が 2024 年 1 月 4 日午後、ネーपीドーのゼーヤーティリ・ベイマン・レセプションホールにて開催され、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席しスピーチを述べ、各名誉勲章を授与しました。

授与式では、英雄勲章 25 名、イェトゥーラ勲章 9 名、イェバラ勲章 99 名、行政分野功績勲章（一等）14 名、行政分野功績勲章（二等）28 名、行政分野功績勲章（三等）34 名、社会分野功績勲章（一等）3 名、社会分野功績勲章（二等）6 名、社会分野功績勲章（三等）3 名、技術分野功績勲章（一等）5 名、技術分野功績勲章（二等）10 名、技術分野功績勲章（三等）33 名、さらに国軍総司令官名誉賞が 480 名に授与されました



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官

中国の Sun Weidong 外務副大臣と面会

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官は 2024 年 1 月 5 日午前、中国の Sun Weidong 外務副大臣とネーピードーの国軍迎賓館（タツマドー・ゲストハウス）にて面会しました。

会談では、両国の緊密で友好的な協力状況や、両国の協力を引き続き強化することについて、さらに二国間の国境地域の安定・平和についての取り組みを継続させていく状況などについて親密かつ友好的に意見交換を行いました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官

政党登録承認済の各政党の担当者と面会

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官は、登録が承認されている各政党の担当者と 2024 年 1 月 6 日午前、ネーピードーの国家統治評議会議長室グ・シュエワ・ホールにて親しく会議を行いました。

会議で、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官は、私たち政府の最終目的は自由で公正な選挙を実施し、勝利した政党に国の責務を引き渡すことであること、しかしながら政治問題を政治の場で解決するのではなく、暴力によって解決しようとしたために、国内で武力紛争が発生していること、我々が定めたロードマップの中の最後の部分に「非常事態の期間に関する規定が完了したのち、憲法（2008 年）に従って自由で公正な複数政党制による民主的な総選挙を再度実施し、勝利した政党に民主主義の基準に従って引き続き国家の責務を委ねていく」とあると述べました。

さらに、国の安定と平和のために政党の党員が参加し取り組むことも必要であること、我が国として独立後 76 年を経過していること、世界の独立を果たした国々の中には、安定・平和な国があると同時に、安定・平和でない国もあること、我が国として、安定と平和により発展がなされるということ、国が安定し平和となるために、国民全体が団結することが必要であること、意見の相違は平和的手段によって解決されなければならないこと、2021 年以降に発生した PDF という名のテロリストの暴力行為により、国だけでなく国民の生活も被害を受けたこと、国家統治評議会として政治的ビジョンや国家の目標、またロードマップや方向性などを制定し、政治、経済、社会が発展するよう実践していること、中小零細企業（MSME）の発展を奨励していること、これらのことを実践する際に政党としても協力して取り組んでほしいこと、政党としても国を良くしていくという精神で協力する必要があると述べました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官
ASEAN 議長のミャンマー担当特使と会談

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令は、ASEAN 議長のミャンマー担当特使である H.E. Mr. Alounkeo Kittikhoun と 2024 年 1 月 10 日午前にネーピードーにある国家統治評議会議長室の外交官来賓室にて面会しました。



会談では、ラオスーミャンマー間の良好な友好関係と協力状況、2020年の複数政党制民主主義による総選挙での不正投票発生により、国家統治評議会が国の任務を遂行しなければならなくなったこと、政治的見解の相違に対する政治的解決策のない状態で武力・暴力が行われていること、国家安全と和解に向けて政府として努力していること、国民が望む複数政党制民主主義の道を維持するために国軍として断固とした姿勢をとっていること、国家統治評議会政府として5つのプロセスを確立し国の安全・安定、発展のために実施していること、政治の目標と国家の目標を制定し実施していること、ミャンマーとして人道支援に関して積極的に協力していること、2024年ASEAN輪番制議長として責務を果たす場で優先的に実施する事項、さらにASEANの5つの合意項目をミャンマー国家統治評議会として制定したプロセスと調整しながら実施している状況に関して親密に話し合いが行われました。

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 タイ王国の General Songwit Noonpackdee 国軍司令官とビデオシステムにて会談

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官は、タイ王国の General Songwit Noonpackdee 国軍司令官と 2024 年 1 月 12 日夕方、ビデオシステムにて会談しました。

会談では、両国の国境地域の安定と平和ならびに、オンラインギャンブルや金融詐欺撲滅についての両国の協力状況、特に両国の国境の町であるミャワディ近郊でのオンラインギャンブルや金融詐欺が調査によって明らかであり、そのことについて撲滅に向けての二国間の協力状況、また人道支援の協力について両国の国軍間のみならず両国の省庁間でも促進させること、さらにミャンマー―ラオス―タイの3か国の国境地域における森林火災や国境を越えた大気汚染の共同予防・防止などについて意見交換を行いました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 タイ王国の陸軍参謀長室諮問委員会委員長率いる代表团と面会

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官は、タイ王国の陸軍参謀長室諮問委員会委員長兼陸軍作戦センター代表ならびに近隣諸国調整センター（NCCC）代表の General Kittisak Boonprathamchai 率いる代表团と 2024 年 1 月 16 日午前、ネーピードーのバインナウンホールにて面会しました。

会談では、両国の国軍間の既存の友好と協力を強化・促進させること、また継続的な取り組みについてや、国軍間の親善訪問、文化団体間の関係強化、両国の国境地域の安定・平和、法秩序、テロ対策、情報交換における継続的な協力などについて友好的かつ率直に意見交換を行いました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に
駐ミャンマー ブラジル大使が信任状を提出

駐ミャンマー ブラジル大使として任命された H. E. Mr. Gustavo Rocha de Menezes が 2024 年 1 月 18 日午前、ネーピードーの国家統治評議会議長室の外交貴賓室にて、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に信任状を捧呈しました。

その後、ミャンマー-ブラジル二国間の外交関係や協力・友好についてや、ミャンマーの政治の発展・変化の状況、国家統治評議会政府として5つのロードマップを制定し国家の安定・平和、発展などのために取り組んでいる状況、また自由で公正な選挙を順調に開催するための準備状況などについて親しく話し合いました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に
駐ミャンマー エジプト・アラブ共和国大使が信任状を提出

駐ミャンマー エジプト・アラブ共和国大使として任命された H.E. Mrs. Aya Saad Mohamed Abdelkarim が 2024 年 1 月 18 日午前、ネーपीドーの国家統治評議会議長室の外交貴賓室にて、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に信任状を捧呈しました。

その後、ミャンマー - エジプト二国間の外交関係や友好、協力関係の促進ならびに農業分野の発展や製造業の分野での協力、さらに教育分野での協力について親しく話し合いました。



経済特区改善のための関係管理委員会の取り組みと
現在の3つの経済特区の中のティラワ経済特区の順調な進行状況

ミャンマー経済特区中央委員会の調整会議（1/2024）が2024年1月10日午後、ネーपीドーの商業省会議場で開催され、ミャンマー経済特区中央委員会会長である国家統治評議会議長兼副首相ソー・ウィン副司令官が出席しスピーチを述べました。

同氏はスピーチの中で、国家統治評議会の3つの経済目標の中の市場経済システムの安定化のために実施されている海外からの投資を誘致し、国民全体の経済が発展することが目標として定められていること、この目標を順調に実現させるために経済特区ごとの標準業務手順（SOP）を体系的に作成し実践して行けるよう、国際的な手続きに従ってミャンマー経済特区法（2014年）を発行し、ワンストップサービスで管理すること、現在、ミャンマーでチャウピュー経済特区、ダウエー経済特区とティラワ経済特区の3つの経済特区が実施されていること、現時点で3つの経済特区の中でティラワ経済特区が順調に進行中であること、経済特区において、事業が体系的に行われていることや職員のワンストップサービスの能力の高さや職務への勤勉さにより、東南アジアの中でも名高いティラワ経済特区となっていること、このティラワ経済特区も現在行われている投資が落ち込まないように維持する必要があること、投資のさらなる促進のために誘致が必要であること、ティラワ経済特区での2013年11月時点の投資国は12か国であり、企業数114社、投資額はUSドル21億であること、これらの企業の初年度の推定雇用能力は、37000人の労働者と海外からの専門家と海外からの労働者887人であるが、創出される雇用数は少ないこと、ティラワ経済特区を国内の零細中小企業（MSME）で統合させ、海外への輸出において11月中、MSMEの原材料を輸入し国内製品とその他の品目で13億ミャンマーチャット超を輸出したこと、MSMEの国内産の原材料およびその他の材料を今以上に輸出し、ミャンマーチャットに代わる外貨獲得において、私たちの生産能力をさらに向上させるために取り組む必要があること、電力に関しては太陽光システムを活用するよう3つの企業と話し合いが行われたこと、ティラワ経済特区内で太陽光発電利用を奨励する必要があると述べました。



国家統治評議会委員兼内務大臣ヤーピェイツ中将率いる代表団 中華人民共和国
国務院議員 Mr. Wang Xiaohong 公安大臣率いる代表団とオンライン会談

国家統治評議会委員兼内務大臣ヤーピェイツ中将率いる代表団は、中華人民共和国国務院議員 Mr. Wang Xiaohong 公安大臣率いる代表団と2024年1月5日午後6時にネーピード第10公館の内務省の会議室でオンラインシステムにて会談を行いました。



会談では、第7回法秩序と安全保障協力に関する閣僚会合でミャンマー・中国二国間で合意された決定の実施に関する事項や、国境を越えた犯罪やオンライン詐欺に対し二国間の協力による根絶に関連する事項、ミャンマー・中国国境地域の安全と平和に対し協力する事項と、両国間の友好協力に関する事項について親密かつ率直に意見交換を行いました。

副首相兼外務大臣 ASEAN 議長特別代表と面会

ミャンマー連邦共和国のタン・スェ副首相兼外務大臣が、ASEAN 議長の特使アロンキオ・キティクーン氏率いる代表団と2024年1月10日11時30分にネピドーのパークロイヤルホテル、サファイアホールで面会しました。

会議中、ASEAN 議長特使はミャンマーの5つのロードマップに従ってASEAN 合意5事項の実施の進展や、アセアン輪番制議長ならびにアセアン議長特使と引き続き協力する計画、また人道支援に関する問題について意見を交換しました。副首相兼外務大臣より、ミャンマーの和平政策の実施状況や国内政治進捗状況について説明がなされました。



ウガンダ、カンパラ市に開催された非同盟諸国外相会議に タン・スェ副首相兼外務大臣出席

非同盟諸国の次期議長 H. E. Mr. Yoweri Kaguta Museveni ウガンダ共和国大統領の招待によりタン・スェ副首相兼外務大臣は2024年1月17日から18日までウガンダ国、カンパラ市にて開催された非同盟諸国外相会議に出席しました。

非同盟諸国外相会議で、タン・スェ副首相兼外務大臣は2024年1月17日午後に講演を行いました。副首相兼副外務大臣は講演で、非同盟諸国の現議長であるアゼルバイジャンと、間もなく新議長に就任するウガンダの努力を祝福すること、今日の世界は、国際安全保障問題を含むあらゆる側面からの課題に直面しています。非同盟諸国として、すべての途上国の共通の利益にとって重要な団体であり続ける必要があること、ミャンマーは非同盟諸国の設立に参加した国の一つであり、非同盟諸国の方針を全面的に遵守していること、非同盟諸国としての団体の方針、手順、ルールや規制に従い、非同盟諸国の統一性を維持すること、ミャンマーとして発展途上国、全体の平和、繁栄、正義、平等と発展のために他のすべての非同盟諸国加盟国と協力することを述べました。副首相兼外務大臣は会議で政府の平和、開発と民主化への取り組みやミャンマーの現在の情勢についても明らかにしました。

非同盟諸国外相会議では、外相と代表者が非同盟諸国の協力プロセスに関連する事柄や、地域および世界の問題について友好的かつオープンな意見交換を行いました。さらに、国連安全保障理事会の改革、国連の2030年の長期持続可能な開発目標の達成、気候変動問題、貧困減少に関連する問題について協力することについて話し合いました。加盟国はそれぞれの国の情勢についても議論しました。非同盟諸国は、発展途上国の利益向上のために1961年に設立され、非同盟運動に現在120か国が加盟しています。ミャンマーは非同盟諸国の設立に参加した国の一つでもあります。



ウガンダ、カンパラ市にて開催の非同盟諸国首脳会議中にタン・スエ副首相兼外務大臣が Mr. Soltan bin Saad Al-Muraikhi カタール国外務大臣と会談

ウガンダ、カンパラ市に開催された非同盟諸国首脳会議に出席しているタン・スエ副首相兼外務大臣は Mr. Soltan bin Saad Al-Muraikhi カタール国外務大臣と2024年1月17日に会談を Rwenzori Convention Centre にて会談しました。

会談では、副首相兼外務大臣は中央政府が平和、発展と民主化の実施についての努力と、ミャンマーの現在の情勢を説明しました。さらに、ミャンマー・カタール二か国間の友好関係と両国の関係の強化、非同盟諸国内の協力を含めた地域と国際面において緊密に協力する事に関して意見交換をしました。



ウガンダのカンパラ市で開催された第 19 回非同盟諸国首脳会議に タン・スェ副首相兼外務大臣が出席

第 19 回非同盟諸国首脳会議の主催国であるウガンダの招待により、タン・スェ副首相兼外務大臣が、2024 年 1 月 19 日-20 日にウガンダのカンパラ市で開催された第 19 回非同盟諸国首脳会議に出席しました。

上記会議の開会式が 2024 年 1 月 19 日に、ルウェンゾリ・コンベンションセンターにて開催され、非同盟諸国の現在の議長国であるアゼルバイジャンの代表団の Mr. Jeyhun Bayramov 外務大臣が歓迎の言葉を述べました。

その後、ウガンダの Mr. Yoweri Kaguta Museveni 大統領が全加盟国の満場一致で、第 19 回非同盟諸国首脳会議の議長に選出され、非同盟諸国の議長の責務がアゼルバイジャンからウガンダに引き渡されました。

続いて、G-77 プラス中国 (G-77 and China) の現在の議長国であるキューバの副大統領、第 78 回国連総会 (UN General Assembly) 議長、ならびにアフリカ連合 (African Union) 委員会の委員長もそれぞれスピーチを行いました。

2024 年 1 月 19 日-20 日に開催された第 19 回非同盟諸国首脳会議には併せて 80 か国以上から代表が出席し、それぞれスピーチを行いました。

第 19 回非同盟諸国首脳会議の総会において、タン・スェ副首相兼外務大臣は 2024 年 1 月 20 日午後、スピーチを行いました。副首相兼外務大臣より、このような重要な首脳会議を主催国として受け入れ主催したウガンダ政府と国民に感謝すること、過去 4 年間にわたり、非同盟諸国の議長国として責務を順調に担ってこられたアゼルバイジャンを賞賛すること、今回の首脳会議のテーマである「世界の富の分かち合いのための協力の促進」は、こんにちの世界の現状を反映しており特に相応しいこと、我々が直面しているすべての課題や困難は、非同盟諸国の団結や関与、協力などで乗り越えられるとミャンマーとして確信していること、世界の主要国間の競争、紛争や世界の憂慮すべき問題を実質的に解決するために、非同盟諸国としてさらに団結する必要があること、またミャンマーは非同盟諸国の設立に参加した国の一つであるため、非同盟諸国として数多くの世界的な課題を解決していくことにおいて、途上国が重要な役割を果

たし続けることへの期待などについて述べました。副首相兼外務大臣は会議において、中央政府の平和・発展、民主化の実現のための取り組みや、ミャンマーの開発の現状などについて説明しました。

2024年1月19日、主催国のウガンダ大統領夫妻により、第19回非同盟諸国首脳会議に出席した加盟国の代表団のリーダーらを迎えた名誉晩餐会が開催されました。

G-77 プラス中国 (G-77 and China) の「第3回南サミット」が2024年1月21日カンパラ市で開催され、ミン・ルイン駐エジプト ミャンマー大使率いる代表団が出席しています。

非同盟運動(Non-Aligned Movement-NAM)は、途上国の利益促進のために1961年に設立されました。今回開催の第19回非同盟諸国首脳会議では、南スーダンの加盟が承認されました。非同盟諸国に現在121か国が加盟しています。ミャンマーは非同盟諸国の設立に参加した国の一つです。



ウガンダのカンパラ市で開催された第 19 回非同盟諸国首脳会議の開催期間中にタン・スェ副首相兼外務大臣がアラブ首長国連邦の代表団の Minister of State Mr. Khalifa Shaheen Almarar 代表、バングラデシュの Dr. Hasan Mahmud, MP、ウガンダの Minister of State Hon. John Mulimba と会談

ウガンダのカンパラ市で開催された第 19 回非同盟諸国首脳会議に出席していたタン・スェ副首相兼外務大臣は、上記会議開催中に個別会談として 2024 年 1 月 19 日にアラブ首長国連邦の代表団の Minister of State Mr. Khalifa Shaheen Almarar 代表と、2024 年 1 月 20 日にバングラデシュの Dr. Hasan Mahmud, MP、ならびにウガンダの Minister of State Hon. John Mulimba とルウェンゾリ・コンベンションセンターにて会談しました。

会談で副首相兼外務大臣は、中央政府の平和・発展と民主化への取り組みや、ミャンマーの現在の発展状況などについて説明しました。さらにミャンマー―アラブ首長国連邦間、ミャンマー―バングラデシュ間、ミャンマー―ウガンダ間の友好関係のさらなる強化・向上についてや非同盟諸国内での協力を含む、地域および国際面での緊密な協力について親密かつ率直に意見交換を行いました。





副首相兼外務大臣 駐ミャンマー中華人民共和国大使との面会

タン・スエ福首相兼外務大臣はチェン・ハイ駐ミャンマー中華人民共和国大使と2024年1月25日午前10時にネーピードの外務省にて面会しました。

会談では、ミャンマー・中国二カ国間に既にある友好関係のさらなる強化、二国間のプロジェクトの実施の継続や、国境地帯の平和と安定の維持に関する事項、地域的および国際面での緊密な協力について親密に意見を交換しました。



ウー・ルイン・ウー副外務大臣 中華人民共和国 Mr. Sun Weidong 副大臣
ミャンマー・中国の二国間の会談

ウー・ルイン・ウー副外務大臣は中華人民共和国の Mr. Sun Weidong 副大臣とミャンマー・中国二国間の会談を2024年1月5日午後4時30分にネーピードの外務省にて行いました。

会談では、ミャンマー・中国二国間に既にある友好関係をさらに強化すること、ミャンマー・中国両国が協力している計画を継続的に実施すること、ミャンマー・中国経済回廊と一帯一路の下でのプロジェクトの実施をスピードアップすること、両国の国境地域の安定のために引き続き協力すること、ASEAN とメコン・瀾滄地域協力に関する地域のメカニズムにおける両国間の協力を強化し、地域と国際面において両国がお互いに支持することに関して意見を交換しました。

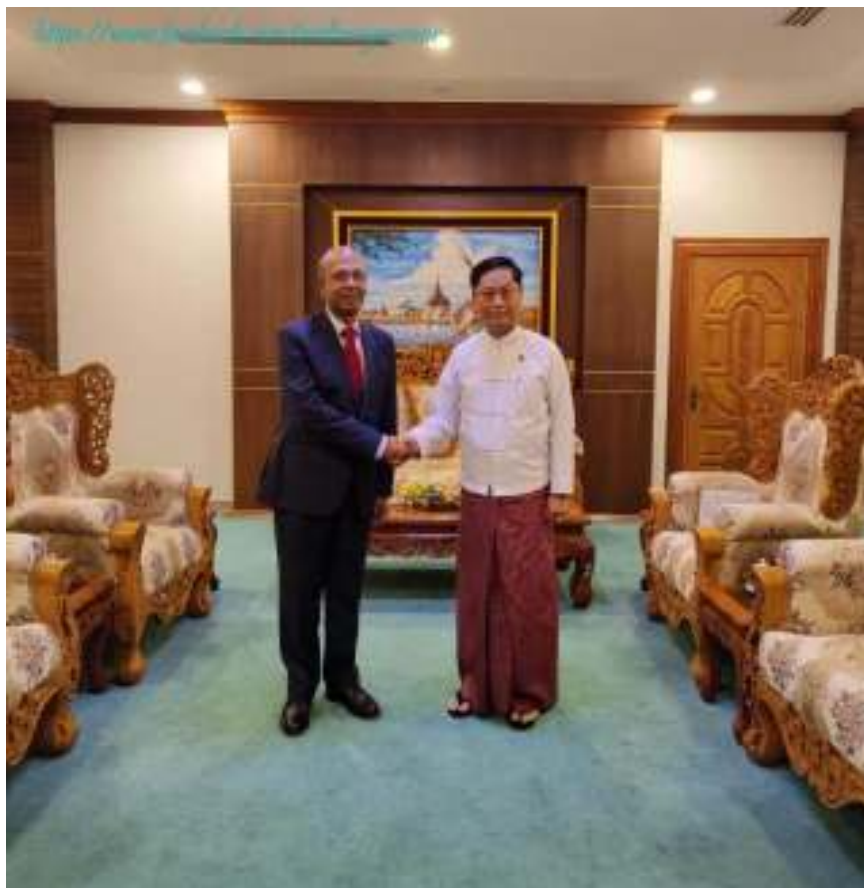
正午には、チョー・ミョウ・トゥッ副外務大臣より中華人民共和国の外務副大臣率いる代表団にミャットーウィンホテルにて昼食を振舞いました。



ウ・ルイン・ウー副大臣 駐ミャンマーインド大使との面会

ウ・ルイン・ウー副外務大臣はH. E. Mr. Vinay Kumar 駐ミャンマーインド大使と2024年1月16日午後2時にネーपीドにある外務省にて面会しました。

会談では、ミャンマー・インド二国間の友好関係、能力の構築と人材を含め相互に利益をもたらす分野でさらに協力すること、二国間に行われている発展に関する計画の促進、二国間の国境の安全を維持するために両側が継続的に協力すること、ベンガル湾多分野技術経済協力イニシアチブを含め地域諸国と国際面で緊密に協力することなどについて親密に意見交換をしました。



副外務大臣 駐ミャンマー・ブラジル共和国大使と面会

ウ・ルイン・ウー副外務大臣は、Mr. Gustavo Rocha de Menezes 駐ミャンマー・ブラジル共和国大使と2024年1月18日午後2時にネーピードにある外務省にて面会しました。

会談では、ミャンマー・ブラジル二カ国間の関係強化の状況、蛇の解毒剤製造プロジェクトのための技術協力、双方に利益をもたらす可能性がある航空部門、農業、貿易、医療と技術関係の分野の協力を促進するための事柄、ミャンマー・ブラジル間の政治的な会談の開催と国際的面で緊密に協力することなどに関して親しく会談しました。



副外務大臣 駐ミャンマーエジプト・アラブ共和国の大使との面会

ウー・ルイン・ウー副外務大臣はH.E. Mrs. Aya Saad Mohamed Abdelkarim 駐ミャンマーエジプト・アラブ共和国特命全権大使を2024年1月19日午後2時にネーピードにある外務省の副大臣の来賓室に面会しました。

会談では、ミャンマ・エジプト二カ国間に既にある友好関係のさらなる強化や、貿易、投資、農業、教育、文化などの分野を含め両国に利益のある協力の促進、二カ国間の同意の実施と、まだ署名されていない協定についての調整、また地域と国際面でも緊密に協力して行うことなどについて親しく意見交換をしました。



ウー・ルイン・ウー副外務大臣 Mr. Marcoluigi Corsi
国連常駐調整官兼人道調整官と面会

ウー・ルイン・ウー副外務大臣は Mr. Marcoluigi Corsi 国連常駐調整官兼人道調整官と2024年1月24日午後2時にネーपीドにある外務省にて会談しました。

会談では、ミャンマー政府と国連機関の間の将来的な協力のための方法について話し合いました。



ASEAN 議長国のミャンマー担当特使である H.E. Mr. Alounkeo Kittikhoun 率いる代表団が NCA（全土停戦合意文書）に署名済みの民族武装勢力 7 グループと面会

ASEAN 議長国のミャンマー担当特使である H.E. Mr. Alounkeo Kittikhoun 率いる代表団は、NCA（全土停戦合意文書）に署名済みの民族武装勢力 7 グループと 2024 年 1 月 10 日午後、ネーपीドーの国民統一・平和構築センター会議室にて面会しました。

会議には、ASEAN 議長国のミャンマー担当特使である H.E. Mr. Alounkeo Kittikhoun 率いる代表団と NCA に署名済みの民族武装勢力であるアラカン解放党（ALP）、カレン平和評議会（KNU/KNLA）、ラフ民主同盟（LDU）、パオ民族解放機構（PNLO）、民主カレン仏教徒軍（DKBA）新モン州党（MNSP）；シャン州復興評議会（RCSS）と和平プロセスステアリングチーム（PPST）の担当者らが出席しました。



駐日ミャンマー大使館にてミャンマー・日本ビジネスフォーラムを開催

駐日ミャンマー大使館と民間外交推進協会（FEC）共催のミャンマー・日本ビジネスフォーラムを、2024年1月26日午前に駐日ミャンマー大使館のエヤワディホールにて開催しました。

講演の目的は、ミャンマーの経済政策と手順を日本の起業家にシェアすること、ミャンマーと日本間の経済協力の強化、ミャンマーで投資に関して期待される事業についてのビジネスチャンスのシェアと投資の誘致、現在ミャンマーに進出している日系企業の問題点解決への協力、ミャンマー大使館と日系企業家間の協力促進などについてです。

講演では、FEC 日アセアン文化経済委員会会長兼味の素（株）アドバイザーの栃尾雅也様より開催式のご挨拶がなされ、ソーハン駐日ミャンマー大使より経済政策、ミャンマーの貿易、投資に関する状況、ミャンマーでの投資による強みとチャンス、投資家のため保護状況などが説明され、トゥーザー・ピョー経済参事官からは、事業を行う手順や、貿易と投資に関するスムーズな稼働への手順、現在、日本の企業家がミャンマーで順調に稼働している状況などに関して説明しました。

講演後、参加者からの質問を大使館の担当者よりお答えしました。その後、FEC の松澤健理事長より、講演が成功したことに関する感謝の挨拶がなされ、記念の写真撮影を行いました。講演にはソーハン大使を含め大使館の担当者、FEC の松澤健理事長率いる会員の方々、FEC と関連のある日本の企業家の方々など合計30名が参加しました。



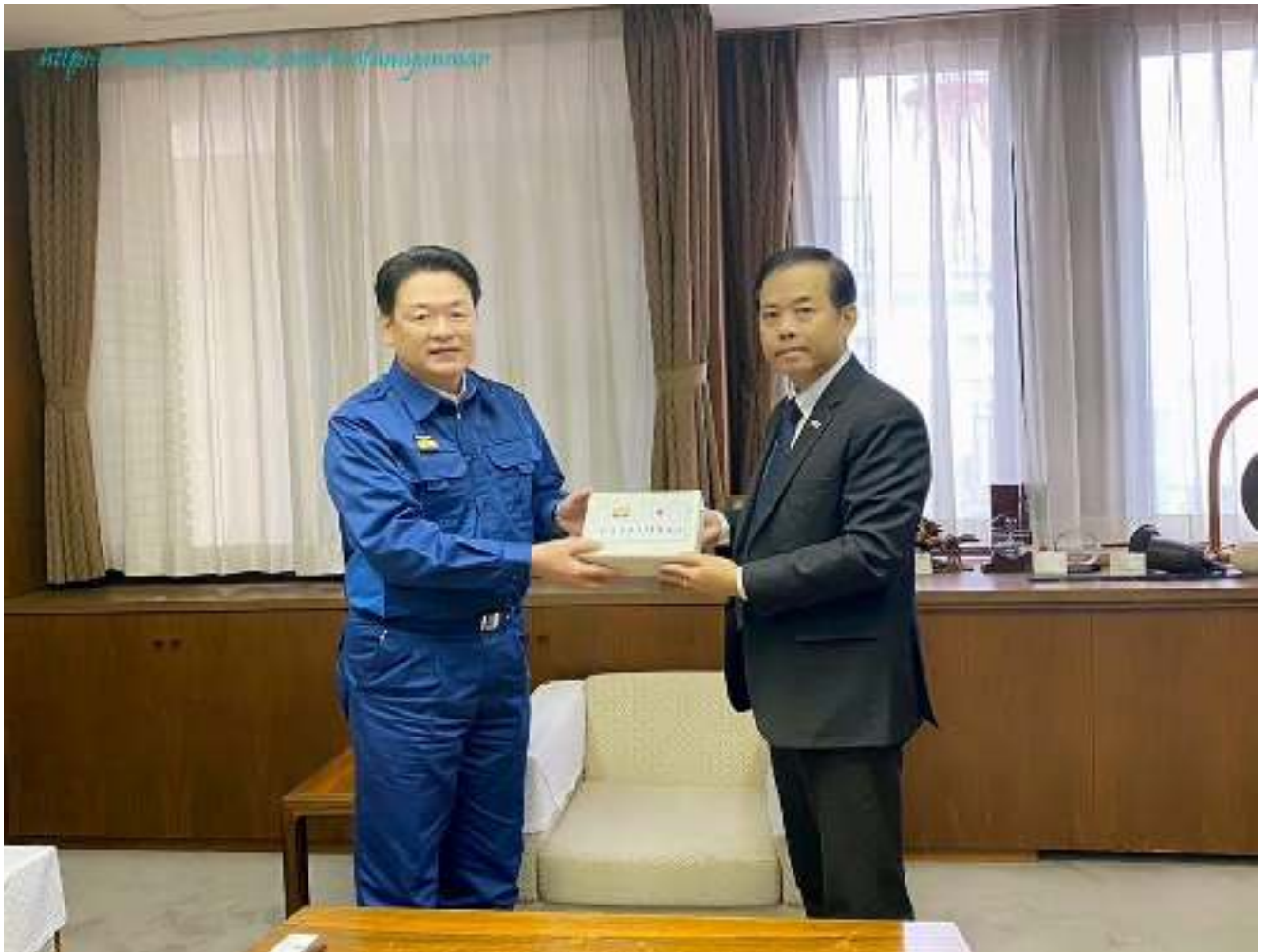


日本の地震で被災された方々のために、駐日ミャンマー大使より七尾市長を訪問し
義援金を贈呈

本の石川県において2024年1月1日にマグニチュード7.5の地震が発生し、232人以上の方々が命を落とされ、多くの住民の方々が深刻な被害を受けました。この地域に住むミャンマーの人々も避難所に一時避難していました。

ソー・ハン駐日ミャンマー大使は、2024年1月20日、地震の被害を受けた石川県の七尾市を訪れ、茶谷義隆 七尾市長と面会し義援金を手渡しました。面会でミャンマー大使より、ミャンマーにとって親しい友人である日本がこのような自然災害に見舞われたことは大変遺憾であること、地震の被害を受けた地域に住むミャンマーの人々を助けてくださったことに感謝申し上げること、ミャンマー大使館として今後も引き続き必要なことを協力していくことなどについて述べました。また茶谷義隆 七尾市長より、大使自ら地震が発生した地域まで訪れ義援金を届けてくださり心より感謝申し上げると述べられました。

会談後、ソー・ハン大使はミャンマー大使館の職員とその家族や、日本に暮らすミャンマーの人々、日本に留学しているミャンマー政府職員、ミャンマーに投資している日本企業、各ミャンマー名誉領事、日本で事業を行っているミャンマー企業やその他善意ある方々からの寄付の合計198万円を茶谷義隆 七尾市長に手渡しました。



ソー・ハン駐日ミャンマー大使 地震の被害を受けた日本の石川県在住のミャンマーの人々を訪問・激励し、飲料水や食糧、医薬品を寄付

ソー・ハン駐日ミャンマー大使は2024年1月1日にマグニチュード7.6の地震が発生した石川県に在住しているミャンマー人労働者を2024年1月27日に訪問して、人々を励まし、飲料水や食糧、医薬品などを寄付しました。

ソー・ハン大使は、石川県の志賀町を訪れ、電気製品の工場で働いているミャンマー人女性12名と面会しました。面会では、ソー・ハン大使より、大地震の強い揺れの中、ミャンマーの人々が命を落とすことなく、怪我などもなく無事であったことに安堵したこと、地震発生の中、ミャンマーの人々がお互いに話し合い、困難に対し一緒に立ち向かったことを讃えること、このような場合にどのように行動するかをご教示くださった日本の地元のみなさまに感謝申し上げること、ミャンマー大使館として、地震後にミャンマーの方々と連絡を取ることを試みたが2024年1月24日に地元の団体の一つと連絡が取れたため、本日このように訪問することができたことなどを述べ、お米や油、食料品、飲料水、医薬品などを手渡しました。



ミャンマーの女性 12 名が働いている志賀町の電気製品の工場は地震の被害がそれほど大きくなかったため、引き続きその工場で働くことができるということです。上記女性らが居住している場所も被害がなかったため、引き続き同じ場所に住んでいるということです。ミャンマー大使館としても志賀町に住んでいるミャンマーの人々について継続的に連絡し、必要なことについても引き続き支援してまいります。

その後、ソー・ハン大使は石川県の金沢市を訪れ、七尾市の食品工場で従事しているミャンマー人女性 16 名と面会しました。面会では、ソー・ハン大使より、大地震の強い揺れの中、ミャンマーの人々が命を落とすことなく、怪我などもなく無事であったことに安堵したこと、ミャンマーの人々がお互いに話し合い、困難に対し一緒に立ち向かったことを讃えること、このような場合にどのように行動するかをご教示くださった日本の地元のみなさまに感謝申し上げること、ソー・ハン大使より 2024 年 1 月 20 日に七尾市を訪れ七尾市長と面会し、七尾市在住のミャンマーの人々を支援して下さったことに感謝の言葉を申し上げ、ミャンマー大使館ならびにミャンマーの方々などの義援金 198 万円を寄付したこと、地震後にミャンマーの方々との連絡を取ることを試みたが 2024 年 1 月 24 日に地元の団体の一つと連絡が取れたため、本日このように訪問することができたことなどを述べ、お米や油、食料品、飲料水、医薬品などを手渡しました。

ミャンマーの女性 16 名が働いている七尾市の食品工場は地震の被害が甚大ではなかったようですが、七尾市の断水が解消していないため、工場の稼働を当面の間、停止しているとのこと。上記の女性らが居住している家屋の一部も被害を受けているため、16 名の方々は現在、金沢市に避難されています。ミャンマー大使館として、七尾市の食品工場に従事しているミャンマーの方々の暮らしが順調に行くように、また適切な賃金を得ることができるように、労働条件が良好となるよう日本政府の関係省庁や団体と話し合いながら、必要なことを引き続き支援してまいります。

志賀町と金沢市に滞在しているミャンマーの方々からも、大使を含むミャンマー大使館の担当者の方々が今回のように自身が滞在している地域まで訪問し元気づけてくれたこと、また飲料水や食糧、医薬品などを届けてくださったことに心より感謝していると述べられました。ソー・ハン大使からも、現在、冬の時期であり志賀町と金沢

市でも雪が降っているので、健康に充分気を付けること、また飲料水や食糧、医薬品などを続けて送ることなどを述べました。

志賀町や金沢市以外にも、地震の被害を受けている石川県内に住むミャンマーの人々がいるかどうか、ミャンマー大使館としても引き続き調査し、被害を受けている方々への必要な支援を行ってまいります。情報をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ミャンマー大使館にご連絡いただきたく存じます。





ミャンマー連邦共和国国家統治評議会が服役中の受刑者に恩赦を実施

国家統治評議会は、2024年1月4日に76周年を迎えた独立記念日に当たり、国民の安寧と人道主義を重視し、さまざまな刑務所や収容所で刑に服している受刑者 9652 名ならびに外国人受刑者 114 名に減刑、釈放を行いました。

ミャンマーとインド間で「迅速に利益をもたらすプロジェクト実施の覚書」に調印

ミャンマー国政府とインド国政府の間で「クイック・インパクト・プロジェクト-QIP」の実施に向けた覚書の調印式が2024年1月9日午前、ネーपीドーの国境省大臣室の会議室で行われました。

クイック インパクト プロジェクト (QIP) は、計画費用として計画一つに対しUSドル 50,000 で、ミャンマー国境地域の発展と社会経済的成長を援助するためにインド国政府から支援提供されます。



2023年12月の第3週までにミャンマーから
輸出額 US ドル2億6600万以上を達成

2023年12月の第3週までにミャンマーよりUSドル2億6600万相当の輸出品が輸出されました。年末でありながら、ミャンマーの農産業である緑豆、ブラック豆、エンドウ豆等の豆類、スイカ、メロンなどの果物、ゴマ、ピーナッツ、ゴムや玉ネギ、CMT方式（裁断、縫製、梱包）での既製衣料品などの製品の海外からの需要が増加しています。

2023年12月第3週までに豆類2万4779トンを輸出し、USドル2100万以上の収入がありました。以前と比較するとパキスタン、タイ、アラブ首長国連邦、ベトナム、カナダ、アメリカと日本からの需要が高まりました。同じく中国、日本、タイ、シンガポール、中国(台北)からもゴマの需要が増加しました。ミャンマーは黒ゴマ1トンをUSドル1380からUSドル1815の価格で輸出しています。

ミャンマーは既製衣料品を主に輸出しており、2023年12月第3週までに53カ国に輸出され、USドル8200万以上の収入を得ました。既製衣料品を主に日本、ポーランド、韓国、イギリスやアメリカに輸出しています。また、ミャンマーは既製衣料品以外に電気製品、靴、バック、かつら、眼鏡、カメラなどをCMPシステムを通じて輸出しており、輸出促進に重点を置いています。



2023年12月4週目までにミャンマーからUSドル2億7,800万相当の輸出品を輸出

2023年12月の4週目までにミャンマーはUSドル2億7,800万相当以上の商品を国外に輸出することができたと商務省が発表しました。ミャンマーはお米、トウモロコシ、ゴム、マッペ、緑豆、キマメ、ササゲ、インゲン豆、ライ豆、ピーナッツ、唐辛子、生姜、タマリンド、ウコン、玉ねぎなどの農産物を中国、タイ、マレーシア、シンガポール、イエメン、インド、バングラデシュやベトナムなどに輸出しています。

ミャンマーからいろいろな豆を購入しているインドに、マッペとキマメについて自由な輸入許可を2025年3月まで延長を許可しているため、購入需要がさらに増加傾向となります。インド市場におけるマッペの価格は、1トン当たり86,000～88,000ルピー、キマメの価格は1トン当たり90,500～93,000ルピーの範囲にあります。ミャンマーにおける生豆の価格は1トン当たり330万チャットでマッペは1トンあたり平均300万チャットです。

2023年12月4週目までに国有部門は、ミャンマーの宝石見本市で販売された翡翠を国外に輸出し、4,139キログラムを中国に、3918キログラムをオーストラリアに航空便で輸送販売しました。さまざまな民間企業も、USドル800万相当の鉛、亜鉛、赤銅や鋳物製品を中国、タイ、韓国、マレーシアやベトナムなどに輸出しています。



2023年4月から11月までの8カ月間に水産物29万トン以上を輸出し
USドル4億4800万を獲得

2023年-2024年会計年度4月から11月までの8カ月間に、水産物29万トン以上が40カ国に輸出され、総額USドル4億4800万の収入があったと水産局より報告がなされました。

水産物は主に日本、中東地域の国々、EU加盟国、マレーシア、中国(台北)とオーストラリアに輸出されています。水産物の中で魚の輸出は10万8000トン、エビの輸出は3万トンでした。

ミャンマーの水産物は海上と国境ゲートを通じて輸出され、中国とタイに主に購入されています。ミャンマーは水産物を隣国のタイと中国に、ミャワディ、ムセ、コータウン、シットウェ、ミエイ、モータウンなどの国境ゲートを通じて輸出しています。

ミャンマーは水産物の安全性を確保するために適正製造基準(Good Manufacturing Practices)に従って製造し、輸入国の規制を遵守しています。



2023年4月から11月までの8か月間に天然ガスの輸出でUSドル20億以上獲得

商務省は、2023-2024会計年度の4月から11月までの8か月間で、天然ガスの輸出により総額USドル20億の収益が得られたと発表しました。

2023年4月1日から12月22日までのミャンマーの主要輸出品の中で、天然ガスは2番目に多い輸出品となっています。計画・財務省は、2023-2024会計年度4月から6月までの第1四半期の天然ガス輸出収入がUSドル8億4,170万で、前年度同期と比較してUSドル6,780万減少したと商務省より発表されました。

ミャンマーは、天然ガスをタイ、中国と日本に輸出しています。現在、ヤダナー、イエタゲン、シュエ、ゾーティカの海洋天然ガス生産プロジェクトで天然ガスを採掘生産しています。



2023年 4月から12月までの9カ月間に110万トンのいろいろな豆
輸出で9億7,800万米ドルを獲得した

経済貿易省は、2023年から2024年の9カ月の会計年度期間中に、110万トンのいろいろな豆の輸出により9億7,800万米ドルの収入があったと発表した。

ミャンマーに関しては2023年4月1日から12月29日までに、8億6,172万6,000米ドル相当の101万9,000トン以上の豆が海上輸出され、1億1,668万7000米ドル相当のさまざまな種類の豆を1億3,583万8,000トン以上が国境ゲートを通じて近隣諸国に輸出されました。したがって、2023年から2024年度の9カ月間で、97万8,413米ドル相当の115万5,000トンの豆が国外に輸出されました。

経済商務省は、2022～2023年度にミャンマーは190万トン以上14億7000万米ドル相当のいろいろな豆を輸出したと発表した。

ミャンマーは、マッペ、緑豆とキマメを主に国外に輸出されていますが、マッペとキマメをインド、緑豆は主に中国とヨーロッパ諸国に輸出されています。最近では、インドでマッペとキマメの需要が増加していることを伺いました。現在の市場価格はマッペ1トン当たり300万5000チャット、緑豆は1トン当たり188万チャットである。

インド政府はすでにミャンマー政府と2021～2022年度から2025～26年度にかけて5年連続マッペ25万トンとキマメ10万トンを購入する覚書を締結しています。インドから仕入れるマッペはミャンマーのみで生産される豆類であります。



2023年4月から12月までの9か月間で、ゴムの輸出は1億4,400万米ドル以上を獲得

商業省は、2023～2024年度の4月から12月までの9か月間に合計11万4,855トンのゴムが輸出され、総額1億4,404万6,000ドルの収入を得たと発表した。

ミャンマーゴム協会は今会計年度（2023～2024年）に約30万トンのゴムを輸出することを目標に行っております。ゴムの単価は、モン州現地産天日乾燥ゴムが1ポンドあたり1,600チャット、リブスモークシートローカル3の単価が1ポンドあたり1,620チャットになっています。

ミャンマーのゴム単価は、市場生産状況、東南アジア地域のゴム生産能力と世界のゴム需要によります。ミャンマーのゴム総生産量の70%は中国に輸出されている。ミャンマーゴムをシンガポール、インドネシア、マレーシア、ベトナム、韓国、インドと日本、その他の国への輸出も行っております。

ミャンマーではゴムをモン州、カレン州、タニンダーリ管区、バゴ管区、ヤンゴン管区で主に栽培、生産されています。2018-2019年ゴムの生産時期に収集されたデータによると、ミャンマーにはゴム生産面積が162万8000エーカー以上、モン州に497,153エーカー、タニンダーリ管区には348,344エーカー、カレン州には270,760エーカーあります。

2022～2023会計年度には36万トンのゴムを生産することができ、20万トン以上が海外に輸出されました。



2023-2024 会計年度の前期 9 か月間の対外貿易量 220 億ドル超

2023-2024 会計年度の前期 9 か月間（4 月から 12 月 29 日まで）、ミャンマーは US ドル 120 億 3,700 万相当の輸入品を輸入し、US ドル 106 億 8,400 万相当の輸出品が輸出され、貿易総額は US ドル 227 億 2,000 万でした。前年同期の貿易総額は US ドル 254 億 4,700 万で、前年に比べ減少しています。海上貿易は US ドル 165 億 3,700 万、国境貿易は US ドル 61 億 8,000 万でした。

ミャンマーからは農産物、畜産物、水産物、鉱物、林産物、完成した工業製品などが輸出されており、投資財、工業製品や CMP 原料などを輸入しています。

ミャンマーは輸出を促進するために、国家輸出戦略(NES) 2020-2025 を実現しています。その戦略の優先部門は、農産物、衣料品及び繊維部門、電気・電子機器部門、水産物、林産物、デジタル製品及びサービス部門、物流サービス部門、品質管理部門、貿易の情報サービス部門とイノベーションおよび新しい製品についての分野が含まれます。



ミャンマーから 3,000 トン以上の蜂蜜を輸出

ミャンマーは 2023-2024 会計年度に 3,000 トン以上の蜂蜜を輸出できるよう取り組んでいます。森林資源が豊富なミャンマーでは、天然蜂蜜の増産の可能性が多く、現在、国内消費のために年間 2,000 トンが生産されており、4,000 トンが海外にも輸出されています。ミャンマー産蜂蜜は海外から定期的に購入されているため、民間の養蜂事業が拡大すれば、より多くの海外輸出のチャンスが生まれると思われます。海外市場ではミャンマー産ひまわり蜂蜜とプラム蜂蜜が人気があり、ミャンマー産蜂蜜の多くは中国から購入されています。ミャンマー産蜂蜜は主に日本、中国、韓国、シンガポールやタイに輸出されています。ミャンマーではひまわりの蜂蜜、プラム蜂蜜とビター蜂蜜が主に輸出されており、中でもひまわり蜂蜜が最も多く輸出されています。ASEAN 諸国ではベトナム、ミャンマー、タイが蜂蜜を主に産出し輸出している国々です。



2023-2024 会計年度の最初の 9 か月で、中国とミャンマーの貿易は過去最高に到達

2023-2024 会計年度（4 月から 12 月まで）の最初の 9 か月間に、中国とミャンマーの貿易額は US ドル 26 億を超えました。2022-2023 会計年度の同時期には US ドル 20 億 7,600 万に留まっていたましたが、今年度は US ドル 5 億 2,560 万と過去最高を記録したことが 商務省より示されました。

ミャンマーは、ムセ、ルエジェ、チンシュエホー、カンパイティーやチャイントンなどの国境を通じて中国と貿易しています。ムセの国境ゲートを通じた貿易額が一番多く US ドル 17 億でした。チンシュエホーの国境ゲートでは貿易額 US ドル 7 億 306 万、カンパイティーの国境ゲートでは US ドル 9,554 万 6,000、ルエジェの国境ゲートでは US ドル 7,011 万 1,000、チャイントン国境ゲートでは US ドル 2408 万 6000 の貿易が行われました。

ミャンマーは、中国、タイ、バングラデシュとインドの国境ゲートを通じて貿易が行われています。ミャンマーは農産物、畜産物、水産品、鉱物製品、林産物、完成した工業製品などを輸出し、投資財、工業製品や CMP 原料の輸入を行っています。

